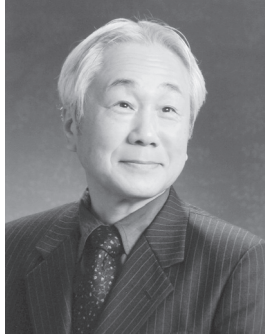


# 北川 誠一 教授業績目録

平成 24 年 3 月  
東北大学史料館  
(著作目録第 1192 号)



## 北 川 誠 一 教 授 略 歴

生年月日	昭和22年10月25日
本 籍 地	北海道
職 名	教授
所 属	国際文化研究科

### 最終学歴

昭和45年 3 月	北海道大学文学部史学科卒業
昭和47年 3 月	北海道大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了

### 職 歴

昭和47年 4 月	北海道大学文学部助手
昭和56年10月	コーカサス史研究のために在外研究員としてソ連邦に出張（昭和57年8月まで）
昭和59年 4 月	弘前大学人文学部助教授
昭和59年 4 月	弘前大学教養部（併任、平成10年 3 月まで）
昭和61年 4 月	大学入試センター教科専門委員会委員（63年 3 月まで）
昭和62年 4 月	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員（平成14年 3 月まで）
昭和63年11月	弘前大学人文学部教授
平成 2 年 7 月	山形大学人文学部（併任、集中講義）
平成 2 年 9 月	コーカサス研究のために在外研究員としてソ連邦に出張（平成 3 年 7 月まで）
平成 6 年 4 月	大学入試センター新教育課程試験問題調査研究委員会委員（平成 7 年 3 月まで）
平成 7 年 4 月	大学入試センター教科専門委員会委員（平成 8 年 3 月まで）
平成 7 年 4 月	九州大学文学部（併任、集中講義）





## 業 績 目 録

## I. 著書・学術論文等

1. 「オルジタイ・ハトゥン降嫁の事情 (1),(2)」, 1975年 5 月, 1976年 4 月, 『史朋』北海道大学東洋史談話会, 第 2 号 1-8頁, 第4号, 8-19頁
2. 「グルジスタン州に所在したジュヴァイニー家領」, 1975年 7 月, 『北大史学』第15号, 116-102頁
3. 「テグダル＝オグルの乱について」, 1977年 3 月, 『オリエント』第20巻 2 号, 57-73頁
4. 「イル・ハン国の西南グルジア支配とサムツヘ＝サアタバゴ領の成立」, 1977年10月, 『史朋』第 7 号, 9-24頁
5. 「モンゴル帝国の北西イラン支配とオルベリヤン家の台頭」, 1978年 3 月, 『北海道大学文学部紀要』第26巻 2 号, 51-112頁
6. 「モンゴル帝国とグルジア王国」, 1979年 4 月, 『史朋』第10号, 1-21頁
7. 「イル・ハン国のグルジア支配とサドゥン・アルツルニの登用」, 1979年 6 月20日『史学雑誌』第87 巻 6 号, 45-71頁
8. 「ニクーダリーヤーンの成立」, 1980年 3 月31日, 『オリエント』第22巻 2 号, 39-55頁
9. 「イル・ハンとニクーダリーヤーン」, 1981年 3 月, 『イスラム世界』第18号, 1-18頁
10. 「クルト朝とニクーダリーヤーン」, 1983年 6 月30日, 『内陸アジア・西アジアの社会と文化』山川出版社, 647-665頁
11. 「14世紀初期のニクーダリーヤーン」, 1983年 8 月, 『北大史学』第23号, 1-10頁
12. 「シルヴァーンとグルジスタンのモンゴル軍」, 1983年11月, 『北海道大学文学部紀要』第32巻 1 号, 109-161頁
13. 「西アジア史料に見えるチンギス＝ハーンの統治権神授説について」, 1984年 3 月, 『北方文化研究』北海道大学文学部, 第16号, 43-67頁

14. 「チムール朝とニクータリーヤーン」, 1984年6月, 『オリエント学論集』オリエント学会, 211-227頁
15. 「ムヒタル＝ゴーシュ法典研究序説」, 1986年3月, 『変革期アジアの法と経済』(昭和60年度科学研究費(一般研究A)報告書, 73-94頁
16. 「ヤズド・カークーイエ朝とモンゴル人」, 1986年3月20日『文経論叢』(弘前大学人文学部)第21巻3号, 115-142頁
17. 「12-13世紀のロレスターン」, 1986年12月, 『史朋』第20号, 1-12頁
18. 「アルメニア人問題の背景」, 1987年3月5日, 『海外事情』拓殖大学海外事情研究所, 1987年3月号, 22-35頁
19. 「中世イラン人アルメニア人の仏教観」, 1987年3月10日, 秋月観映編『道教と宗教文化』, 平河出版社, 439-455頁
20. 「大ロル・アタベグ朝の成立」, 1987年3月20日, 『文経論叢』第22巻3号, 53-85頁
21. 「イル・ハン称号考」, 1987年9月30日, 『オリエント』第30巻1号, 41-53頁
22. 「大ロル・アタベグ朝とモンゴル帝国」, 1988年3月20日, 『文経論叢』第23巻3号, 77-92頁
23. 「アルメニア・アゼルバイジャンの民族間紛争」, 1988年7月5日, 『海外事情』拓殖大学, 63-90頁
24. 「アタベク・アフラーシヤープの反乱」, 1989年3月20日, 『文経論叢』第24巻第3号, 63-90頁
25. 「平和のカラバグー紛争以前のアルメニア・アゼルバイジャン関係」, 1989年4月, 『ビュレティン』(ソビエト研究所)第2号, 7-10頁
26. 「ナゴルノカラバグ帰属決定交渉」, 1989年4月5日, 『海外事情』拓殖大学海外事情研究所1989年4月号, 64-7頁
27. 「アルメニア, アゼルバイジャン, グルジア」, 1990年3月, 『現下ソ連の民族問題』外務省欧亜局ソヴィエト連邦課, 123-147頁

28. 「ザカフカースにおける歴史学と政治－アルバニア問題を巡って」, 1990年10月, 『ソ連研究』第11号, 106-130頁
29. 「ザカフカース－グルジアの内戦とカラバフの戦争」, 1992年5月1日, 『国際問題』第386号, 30-41頁
30. 「ジェベ・ノヤンとスュベテイ・バアトルのグルジア遠征」, 1993年11月, 『史朋』26号, 1-16頁
31. 「ザカフカースにおける国際政治と民族問題」, 1995年, 『講座スラブの世界(2 スラブの民族)』弘文堂, 275-299頁
32. 「アゼルバイジャン政局と民族問題」, 1995年3月, 『旧ソ連の地域別研究』日本国際問題研究所, 49-58頁
33. 「歴史記述における境界－エスノヒストリーとアゼルバイジャンの解体」, 1995年3月, 『境界とコミュニケーション』(文部省特定研究報告書) 弘前大学, 65-75頁
34. 「チョルマガン・タマチ軍の対外活動」, 1996年, 『西南アジア研究』(京都大学西南アジア研究会) No.45, 27-38頁
35. 「アジャリアのムスリム・グルジア人」, 1996年3月31日, 『旧ソ連の地域別研究』日本国際問題研究所, 94-101頁
36. 「グルジア国民統合とメスヘティ・トルコ人」, 1996年4月, 『ロシア研究』日本国際問題研究所, 第22号, 64-80頁
37. 「サインギロのグルジア人」, 1996年9月, 『民族の共存を求めて(1)－スラブ・ユーラシアの変動－域研究報告集』No.13, 北海道大学スラ研究センター, 50-56頁
38. 「ソ連崩壊とアブハジアの独立」, 1997年3月31日, 『旧ソ連の地域別研究』日本国際問題研究所, 68-81頁
39. 「モンゴル帝国のグルジア支配」, 1998年3月, 『オリエント』第42巻 第2号, 69-84頁
40. 「アブハジア・グルジア紛争と歴史記述」, 1998年1月, 『旧ソ連の地域別研究－ザカフカース』日本国際問題研究所, 3-24頁

41. 「古代アブハズィアの種族」, 1998年3月, 『民族の共存を求めて(3)－スラブ・ユーラシアの変動－領域研究報告集』, 北海道大学スラブ研究センター
42. 「アブハズ・グルジア紛争における歴史記述の機能」, 1998年3月, 『民族の共存を求めて(3)－スラブ・ユーラシアの変動－領域研究報告集』, 北海道大学スラブ研究センター
43. 「ザカフカースの民族問題と歴史記述」, 1998年, 弘前大学, 1-162頁
44. 「ザカフカースの民族問題」, 1998年11月号, 『国際政治』(国際問題研究所), 47-61頁
45. 「民族紛争の中の歴史学者－アブハズィア・グルジア紛争理解のために」, 1998年, 『中央アジアの社会変容に関する総合研究』, 東北大学, 101-117頁
46. 「アブハジア歴史人口統計論争」, 1999年, 『現代中央アジアの社会変容』, 東北大学, 93-126頁
47. 「チェチェン市民の社会帰属意識」, 2000年3月, 『旧ソ連圏における市民的アイデンティティの研究』, 東北大学, 23-57頁
48. 「チェチェン政治の対立的要素」, 2000年, 『ロシア研究』第30号, 58-72頁
49. 『ダゲスタンのイスラムについて』, 1998年, 東北大学 1-20頁
50. 「アゼルバイジャン国会選挙結果分析」, 2001年, 『ロシア・東欧における市民社会の確立』東北大学, 1-39頁
51. 「グルジア・アブハジア中世史論争」, 2001年, 『イスラーム社会におけるムスリムと非ムスリムの政治対立と文化摩擦に関する比較研究』, 北海道大学, 22-36頁
52. 「イスラームとモンゴル」, 1998年, 『岩波講座世界史』第10巻, 127-145頁
53. 「アゼルバイジャン国会2000年選挙結果」, 2001年, 『旧ソ連地域における紛争地域と体制変容』, 日本国際問題研究所, 70-84頁
54. 『アフガニスタン爆撃に対するロシア・ムスリムの態度』, 2002年, 東北大学, 1-16頁



55. Seiichi Kitagawa, *The Nationalisation of the Islamic Organization in the South Caucasus, The Construction and the Deconstruction of National Histories in Slavic Eurasia*, Hokkaido University, 2003, pp.291-310
56. 「野戦軍司令官からジャマート・アミールへ」, 2005年, 『東北大学歴史資源アーカイヴの構築と社会的メディア化』 東北大学, 52-69頁
57. 「グルジア・パンキスィ渓谷問題の種族・信仰的背景」, 2005年, 『国際政治』 138号, 142-156頁
58. 「近代コーカサス山地における自由共同体と共同体同盟・ペトルーシェフスキーの諸説を中心とする研究ノート」, 2006年, 『比較連邦制史の研究』(科学研究費成果報告書), 164-180頁
59. 「二つの戦争の間のロシア・ムスリム－信者人口と組織－」, 『中東欧とロシア』, 東北大学, 39-59頁
60. 「イルハン国北王道考」, 2007年, 『史朋』39号, 39-54頁
61. 「南コーカサスにおける言語政策・言語政治・言語外交」, 2011年1月24日, 『歴史の再定義』(岡洋樹編著), 177-225頁
62. 『中央アジア』(世界地理大系5), 共編著, 2012年4月(予定), 朝倉書店
63. 「イルハン国の西王道」, 2012年3月(予定)『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容』(研究プロジェクト報告書), 3, 東北学院大学オープン・リサーチ・センター

## その他

1. Sirapie Der Nersessian, *The Armenians*, London, 1969, 216 pp., 1971年7月, 『北大史学』13号, 83-85頁
2. 「レヴォン・オガネソヴィチ・ババヤン著, 『13・14世紀のアルメニア社会経済・政治史』」, 1972年3月31日, 『東洋学報』第53巻3・4号, 196-206頁
3. 「暗殺教団の国々を訪ねて」, 1975年5月, 『史朋』第2号, 9-11頁
4. 「13-15世紀のアルメニア語史料」, 1977年4月, 『史朋』第6号, 1-23頁

5. 「ジョン・オケイン『スレイマーンの船』」, 1978年11月, 『東洋学報』第60巻  
第1・2号, 202-207頁
6. 「13-14世紀グルジア年代記」, 1980年8月, 『北大史学』第20号, 27-37頁
7. 「ソヴィエト中国学者一覧」, 1980年9月, 『史朋』第12号, 36-45頁
8. 「テキスト校訂, グルジア語訳ツィサナ・アブラーヅェ解説ミハイル・スヴァ  
ニーヅェ『チルディル・エヤーラット・ジャバダフタリ1694年-1732年』」,  
1981年9月, 『史朋』第13号, 26-35頁
9. 「モンゴル人イスラーム国家の成立」, 『北海道新聞（夕刊）』昭和56年（1981  
年）9月22日
10. 「チョウザメの里」, 『あなたの電気』（北海道電力）1982年10号, 6頁
11. 「ザカフカース史雑考」, 『北海道新聞（夕刊）』昭和57年（1982年）12月6日
12. ザカフカースあれこれ」, 1983年1月, 『北大時報』No.345, 24-29頁
13. 「ソヴィエト・アゼルバイジャンの中世史家たち」, 1983年9月30日, 『オリ  
エント』第26巻第1号, 100-114頁
14. 「トピリスイの街角から」, 1983年9月『窓』, 46号,
15. 「アブドゥケリーム・アリーオグル・アリザーデ（1906-1979）」, 1983年10月,  
『史朋』第16号, 1-8頁
16. 「グルジア・ソヴィエト社会主義共和国科学アカデミー出版歴史学関係新着  
文献（1982年）」, 1983年10月, 『史朋』第16号, 14-21頁
17. A Mongolism in the Armenian Inscriptions in the 13th Century, 1984年,  
*Proceedings of the 31th International Congress of Human Sciences in Asia and  
North Africa, p.384*
18. 「グルジア・ソヴィエト社会主義共和国科学アカデミー出版歴史学関係新着  
文献（1983年）」, 1985年9月, 『史朋』第18号, 26-38頁
19. 「レヴォン・ステパニ・ハチキャン（1918-1982年）」, 1986年2月, 『史朋』  
第19号, 15-24頁

20. 「グルジアの歴史学・東洋学関連出版物（1984年）」, 1986年4月, 『中東学会会報』第1号, 339-351頁
21. 「オクタイ・アブドゥルケリムオグル・エフェンディフ著『アゼルバイジャン国家サファヴィー朝』」, 1987年3月, 『オリエント』第29巻2号, 150-155頁
22. 「グルジアの歴史学・東洋学関連出版物（1985年）」, 1988年3月, 『中東学会会報』第3号第2分冊, 244-268頁
23. 「アルメニア」他, 『世界大百科事典』平凡社, 1988年
24. The Zagros Mountain District in Historical Perspective: Urban People without City, 1989, *Urbanism in Islam: The Proceedings of the International Conference on Urbanism in Islam*, vol. 4, pp. 241-247
25. 「モンゴルーイスラーム－ヨーロッパ三極構造」, 1989年, 中近東文化センター研究会報告No.10『イスラームとモンゴル』112-121, 273-286頁
26. 「アルメニア古代史展望」, 1989年3月20日, 『弘前大学国史研究』86号, 40-56頁
27. 「アルメニア」, 他, 1989年, 『ロシア・ソ連を知る事典』, 平凡社
28. 「「タタリーノフ『露日レキシコン』」佐藤和之と共著, 1989年3月31日, 『文化における北』(弘前大学特定研究報告書), 147-253頁
29. 「ザカフカース200年の民族間抗争」, 1990年1月, 『分裂するソ連』日本放送出版協会（NHK ブックス）, 113-153頁
30. 「受難の歴史を生きた聖ゲオルギウスの民」, 『アサヒグラフ』1992年1月31日号, 13頁
31. 「カフカースの諸民族」, 1992年1月20日, 岡崎正孝編『中東世界』世界思想社, 52-77頁
32. 「ソ連邦の解体と中央アジアの複雑」, 1992年2月, 『月刊政界』1992年2月号, 58-63頁
33. 「グルジア」, 1992年4月23日, 『世界の読み方が変わる本』別冊宝島(153), 90-98頁

34. 「アルメニア・アゼルバイジャン紛争の現段階」, 1993年, 『21世紀の民族と国家』, 120-125頁
35. 「Internal Affairs and Ethnic Conflicts in the Trans-Caucasia」, 1994年, JIIA PAPER, No.8, 日本国際問題研究所, 55-61頁
36. 「ザカフカスの紛争」, 1994年2月, 『エコノミスト』(臨時増刊), 150-151頁
37. 「グルジア・アルメニア・コーカサス歴史, 文化, 文学, 言語等研究資料」, 1994年2月, 『豊泉』No.2, 4-5頁
38. 「ザカフカース」等, 1995年, 『世界民族問題事典』平凡社
39. 「ザカフカースにおける国際政治と民族問題」, 1995年, 『CIS (旧ソ連)』自由国民社, 245-276, 327-407頁
40. 「ザカフカス」, 1995年2月, 『エコノミスト』(臨時増刊), 116-117頁
41. 「チェチェン－独立戦争の200年」, 1995年5月25日, 『最近世界の動き』山川出版社, 1-7頁
42. 「北アジア史－驚くべき偉大さと素朴さ」, 1995年10月, 『歴史学がわかる』(アエラ・ムック), 40-41頁
43. 「ジョチ・ウルスの研究, 1 『ジョチ・ハン紀』訳文1」, 1996年3月, 『ペルシア語古写本史料精査によるモンゴル帝国の諸王家に関する総合的研究』平成7年(総合研究A)研究成果報告書, 67-90頁
44. 「カラコユンル朝とアクコユンル朝トルコマンのオグズ・ナーメ」, 1996年3月31日, 『イラン中世国家の支配構造』平成5-7年度科学研究費補助金(一般研究C)研究成果報告書, 1-59頁
45. 「ギヤ・ベラヅェ著「中世トピリスイ史から」, 1997年3月, 『文経論叢』第32巻第3号
46. 「The Role of Historiography in the Abkhazo- Georgian Conflict」, 1997年6月, 『スラブ・ユーラシアの変動－その社会・文化的諸相』平成8年度冬季研究報告会, 87-91頁
47. 「アルメニア民族の起源」, 1997年6月, 『アルメニア』(日本アルメニア友好協会5周年記念誌)創刊号, 13-18頁

48. 「モンゴルとイスラーム」, 1997年 8 月, 『大モンゴルの時代』(中央公論社), 291-445 頁
49. 「ザカフカース」, 1998年 1 月, 『ロシア年鑑』, 大空社
50. 「ジョチ・ウルスの研究, 2, 『ジョチ・ハン』訳文 2」, 1998年 3 月, 『史朋』第30号
51. 「本田實信先生を見送って」, 1999年, 『内陸アジア』第14号, 115-118頁
52. 「アルメニア教会と組織」, 2000年, 『地理』2000年, 5 月号
53. 「第二次チェチェン戦争の行方」, 2000年10月号 『しゃばり』No.224
54. 「グルジア」他, 2001年, 『弘文堂民族事典』
55. 「ジョージ・ブッシュとチングスハン」, 2003年 9 月, 『グローバル化の中のアジア』(講演原稿), 東北大学国際文化研究科 (第10回国際文化基礎講座講義資料集), 27-69頁
56. 「コーカサスとイスラム」, 2001年, 『アジア遊学』no.30, 51-58頁
57. 「アララット」他, 2002年, 『岩波イスラーム事典』
58. 「アルメニア」, 「グルジア」他, 2002年, 『古代オリエント学事典』
59. 「アルメニア」, 「グルジア」他, 2002年, 『山川歴史小事典』
60. 「ヨーロッパの中のコーカサス」, 2002年, 『環』, 第 5 巻, 藤原書店,
61. 『グルジア・パンキスキ渓谷問題の背景』(リーフレット), 2004年 3 月, 東北大学, 1-9 頁
62. 『タジキスタンとウズベスタンの政治的イスラーム』(リーフレット), 2004年 3 月, 東北大学, 1-6 頁
63. 「混迷するチェチェン情勢－歴史, 民族的背景」, 2005年, 『季刊民族学』2005年春号, 86-88頁
64. 「アゼルバイジャン」, 他『中央ユーラシアを知る事典』平凡社, 2005年

65. 「野戦軍司令官からジャマーアト・アミールへ」, 2006年, 『しゃりばり』, 2006年11月号 (No.297), 34-38頁
66. 『コーカサスを知るための60章』(共編著), 2006年, 明石書店,
67. 「グルジア正教会」, 2006年3月, 『週刊シルクロード紀行』第21号, 22頁
68. 「加藤和秀さんの思い出」, 2006年, 『オリエント』49巻1号, 207-210頁
69. 「南コーカサス・民族のモザイクはいかにつくられたのか」, 2007年, 『新シルクロードー激動の大地をゆく』, 上, 日本放送出版会, 91-102頁
70. 「エミン・ホオヴセブ・エミンのロンドン時代」, 2008年, 『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容』(研究プロジェクト報告書), 1, 北学院大学オープン・リサーチ・センター, 32-43頁
71. 「ハチャトゥル・アボヴィヤン」, 2009年5月30日, 『アルメニアを知るための65章』明石書店
72. 「大モンゴルの時代は続くー文庫版のための増補」, 2008年, 『大モンゴルの時代』, 中央公論社, 535-542頁
73. 「エミン・ジョゼフ・エミンのアルメニア独立運動ーロシアへの旅ー」, 2009年, 『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容』(研究プロジェクト報告書), 2, 東北学院大学オープン・リサーチ・センター, 430-439頁 (講演要旨)
74. 「チェチェン紛争の現在」, 2009年3月25日, 『多様性と可能性のコーカサスー民族紛争を越えて』北海道大学出版会, 97-119頁
75. 「祈るイスラーム教と祀るイスラーム教」, 2009年9月, 『暮らしの中の宗教倫理』(講演原稿), 東北大学国際文化研究科 (第15回公開講座「国際文化基礎講座」, ) 93-107頁